会　議　記　録　簿

件　名	令和７年度第１回恵庭市生涯学習推進協議会		
日　時	令和７年５月２２日(木)　１０：００～１１：３０	会　場	市民会館(大会議室)
出席者	生涯学習推進協議会委員 松田、平井、髙橋、水野、茶園、根深、佐藤、八木橋、野藤、徳家、吉田、渡辺、大塚 (欠席者)井上、中山、安中、小川原、神田、熊野、藤岡 市教委 岩渕教育長、狩野部長、山口次長 ＜社会教育課＞ 黒氏課長、津田主査(社会教育主事)、村山主査、飛弾野 評価事業担当者 伊里主事（花と緑・観光課)、川城主査、遠藤主査(商工労働課)、村上主事(健康スポーツ課)、本間主査、安達主査(読書推進課) 佐々木社会教育主事、山本社会教育主事、松本社会教育指導員、岩崎公民館担当職員、今井社会教育指導員(社会教育課)、上記社会教育課各担当主査	人　数	委員　　１３名 市教委　　７名 評価事業担当者 １３名 計　　３３名

概　　要

１．開　会

２．委嘱状交付(机上配布)

３．会長挨拶
松田会長より挨拶

４．挨　拶
恵庭市教育委員会　　教育長　岩渕　隆

５．【議題（１）】第５期恵庭市生涯学習基本計画の推進について
①令和６年度評価事業の取りまとめについて
②令和7年度評価担当事業における行政担当者と評価委員顔合わせ
※各担当より事業概要の説明

６．【議題（２）】第６期恵庭市生涯学習基本計画の策定について
①策定体制およびスケジュール

②ワークショップ〈第5期計画の検証〉
テーマ：この5年での活動・学習環境の変化
※4分野に分けたワークショップ
〈教育・スポーツ、文化・読書活動、家庭教育支援、地域活動(公民館)〉

③共有

【学校・スポーツ】

〇学校分野

・コロナ禍で子ども達に一人一台端末支給となり、ICＴ環境が整えられたことが１番大きい。

・恵庭市内でも、子どもが少しずつ減ってきている現状。

・地域学校協働活動推進員の配置を昨年度から行われており、今後地域との連携した取り組みが進められているのでは。

・子どもたちのSNSの利用により、SNSトラブルも増えてきている。

・また、SNSの普及に伴い、外遊びや集団遊びが減ってしまい、子どもの体力がない。

・コロナによりコミュニケーションや様々な活動に制限のあった子ども達が高学年となった。積み重ねてきたものがなく、コミュニケーション能力をつけなければならない。

〇スポーツ分野

・部活動の地域移行を進めていこうとしているが、指導者の確保が難しいことや、部活動を希望する子どもたちが減っている。

・モルックなど頭も使いながら行うニュースポーツが推奨され、学校の授業などでも取り入れられている。

・ハイテクが各校に出向き、走り方教室を行ってくれており、学校も大変助かっている。

【文化・読書活動】

〇文化活動

(コロナ禍)

・文化活動は色んな人に見てほしいと思うもので、コロナ禍で開催できない際は、HPを活用した発信などを行っていた。

・サークルでの活動については、全員がサークル活動の中で同じことをするわけではないので、コロナ禍でも活動自体は続いていたが、コロナを恐れてやめてしまう人もいた。

(現在)

・コロナ後の活動の再開については、活動を休止していた団体の高齢化が進み、活動再開が難しい。活動者数はコロナ禍前には戻っていないのでは。

・働いている人が多く、文化に時間を費やす人が少なくなっている。

・文化活動はお金がかかるもの(習い事なども含む)というイメージがあり、敷居が高い。一方で、インターネットが普及している今は、自分の作品をネットに掲載しやすい。自己実現がしやすい時代なのではと感じる。

・ただ、文化活動を通じた繋がりについては、ネットの中のつながりで完結し、地域の人が横のつながりでつながっていくのが難しい時代。また、サークル活動は人との出会いだと思うが、人と一緒に何か活動したり、つながったりが煩わしいと考える人も出ている。

〇読書活動

・岡本書店がなくなったが、イエローグローブに本屋ができた。岡本書店が閉店した際、お店から「市民の人がもっとかかわってくれてもよかったのに」といわれ、本屋に市民が入って活動を行 ってもよかったのかと初めて知った。イエローグローブは店舗が広いので、今後読書のイベントができればいいのではと思う。

・また、本は電子じゃなくて、紙の本が良い。紙の本だと家族や知り合いと共有出来てい良いという話をしていた。

【家庭教育支援】

〇活動について

・様々な活動はコロナ禍で激減したが、「復活したもの、形を変えて続けているもの、新しいもの、なくなってしまったもの」などそれぞれの形に変化している。

・なくなった事業については、「担い手の高齢化問題、担い手の負担が大きい事業、良い事業だがマンネリ化してしまったもの」などがあり、そのような事業は徐々に縮小している

〇不登校支援・保護者同士のつながり・学校関係

・コロナ禍後の新しい事業としては、不登校に関する事業が増えている。様々なタイプの不登校がいることから、保護者の支援を行うための事業が多い。

・また、保護者同士のつながりは、コロナ前は集まりなど多くあったが、コロナ禍で親同士の顔が見えず、他の子どもがわからない保護者が増えていた。そのような中、はぴナビかふぇではオンラインの開催をし、保護者が孤独にならないようにしていた。

・現在は参観日やPTA活動が再開し、顔が見える関係に少しずつ戻ってきている。

・学習の方法や、学校の案内も紙よりオンラインやアプリを使ったペーパーレス化に

・以前は、SNSで情報を得るのではなく、直接人を通じた情報交換が多かったが、SNS頼みになっている。LINEのグループなどで情報を得ることが多く、だからこそ直接会う会もいいよねという声もあがっている。

・また、今はママ友っていう言葉もあまり聞かないのでは。検診、通院もパパだけで来ている人も増えている。

・共働きも多く、ママ友必要なのか？という声もネットでも挙がっている。つながりを求めている保護者もいるが、自分のことで精一杯、つながりを求めていない人も多い。
昔だと困ったら先輩ママに相談していたが、誰かとつながらなくてもＳＮＳの普及で情報を得ることができる。それ故に、情報の多さに悩んだり、育児に正解を求めて視野が狭くなる保護者が増えてきている。

【地域活動(公民館)】

・公民館の活動は、地域文化の創造だと考えている。地域文化をつくるには、人と人が交流し、色々な交流ができ、その中から生まれると思う。公民館分館活動では、地域で活動できるような事業を選び行っていた。様々な活動を行っていたが、サマーキャンプは日帰りに、囲碁将棋大会はいまだ再開できずにいる。ただ、公民館祭りは昨年から従前の形に戻り、舞台や展示の発表、バザーなどを通し、地域と学習者が交流している。このような事業を展開できるのは、島松地区の町内会がしっかりしており、島松の住民意識が高いからだと思う。そういう人たちに助けられて活動している。人と人との交流が大切だと考えているが新しく住み始めた人をどう活動に巻き込んでいくかというのが課題

７．事務連絡

・報酬・費用弁償

・つながりワーカーの案内

・鈴木吾郎の展覧会について

８．閉会

９．今後の予定

・今後は資料３に記載のスケジュールを基本に会議開催を予定

・次回会議では、今回委員から出た現状(コロナ禍によるつながりの希薄・デジタルの普及等)を踏まえ、さらに第５期計画の検証を行い、第６期基本理念に関する協議につなげる

会議の様子

第期庭生学基計の進について

５恵市涯習本画推

第６期恵庭市生涯学習基本計画の策定について

以上